

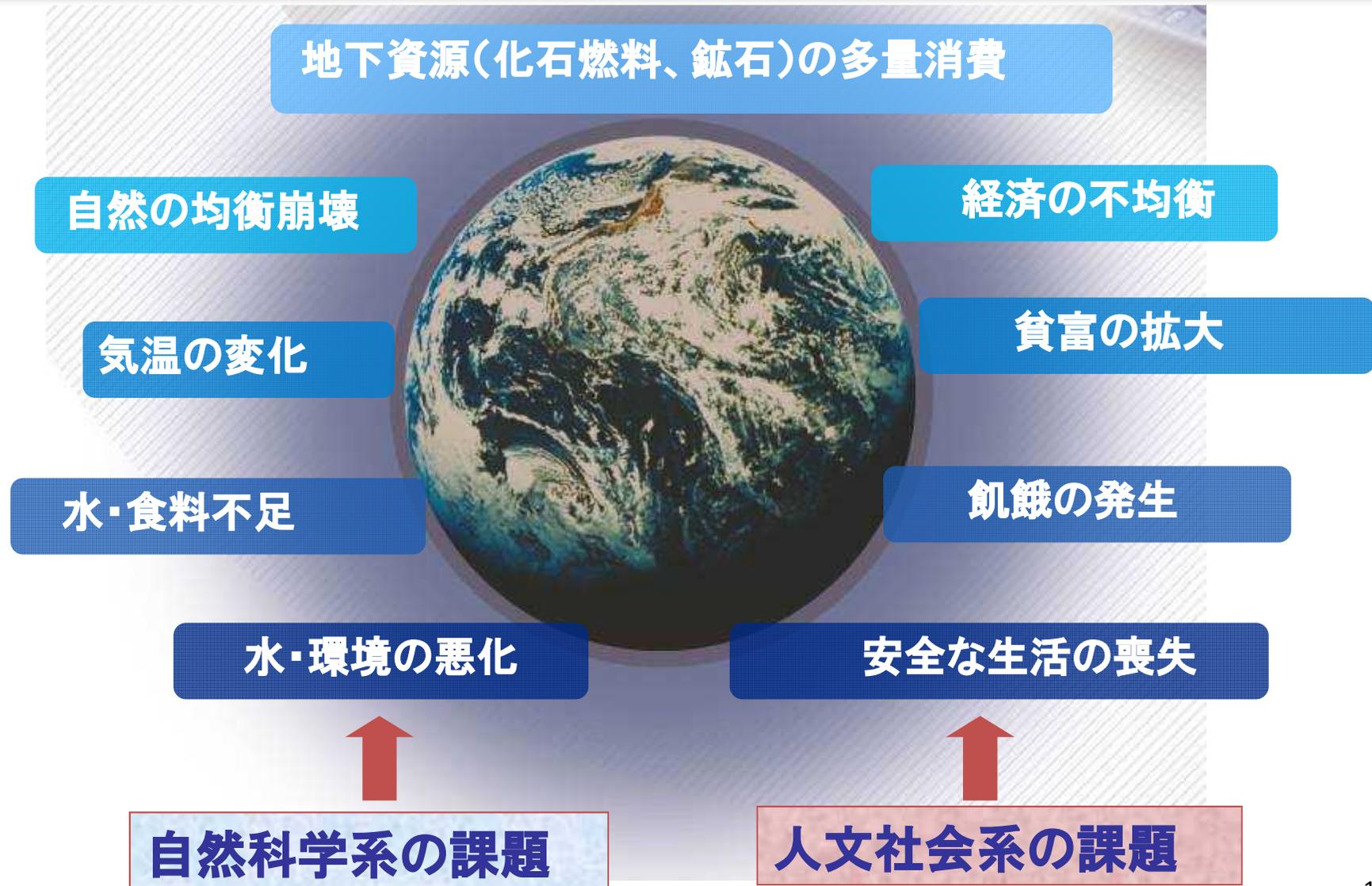
# 20世紀の科学・技術は何をしたか？

19世紀の人間が求めた物質欲および長寿欲を先進国のみ満足させた



# 21世紀の社会に貢献する政策的・重点的研究課題？ 20世紀からの要請である【地球の自然回帰】

地下資源の急激な多量消費から地球の自然が破壊され、地球上に多くの課題が発生



『自然共生型地球学』（共通学術領域）の創成 ⇒ 全学で社会貢献

太陽エネルギー普及率100%社会

食料(水)輸出社会

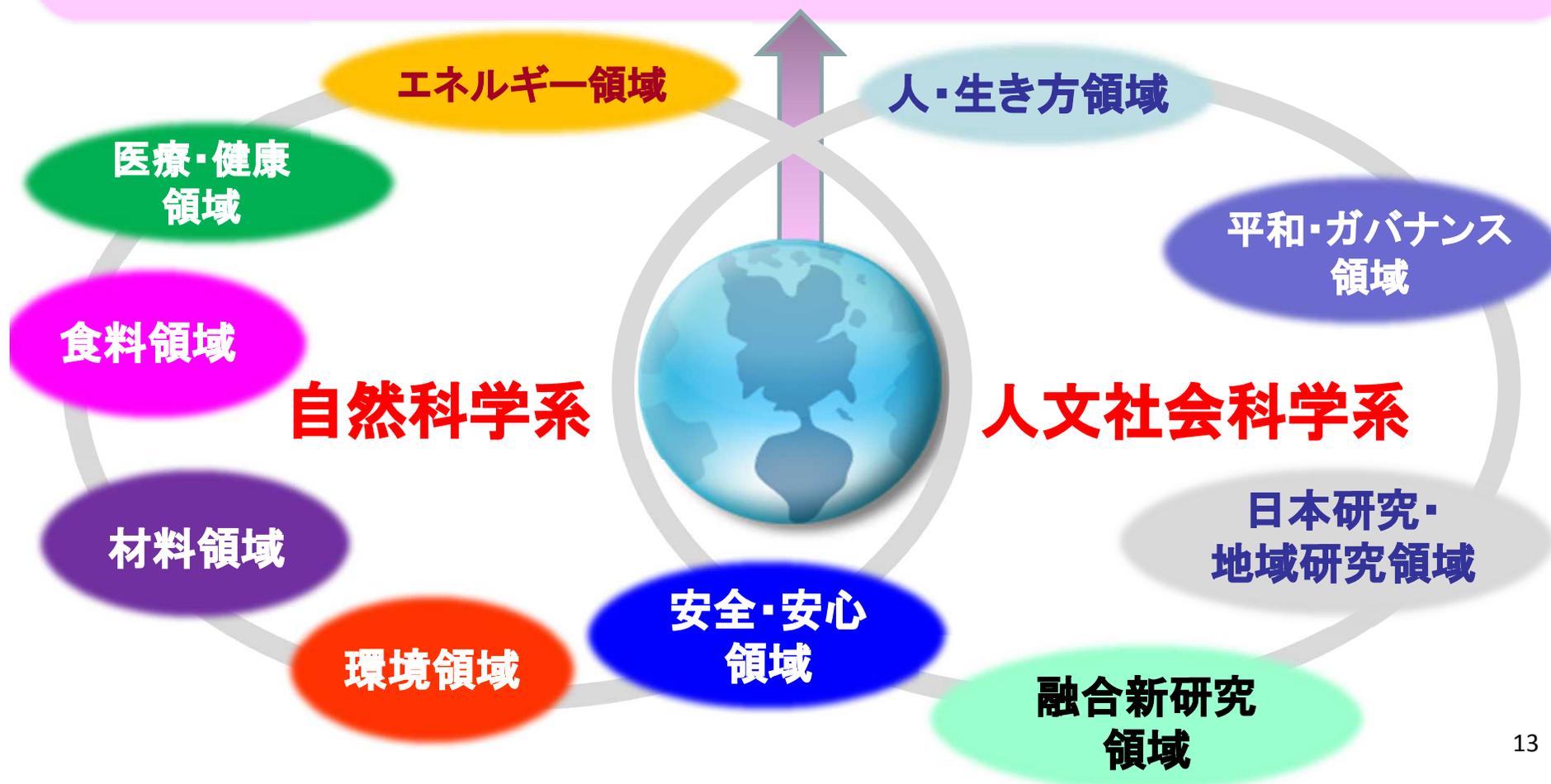
戦争のない安全・安心社会

低侵蝕医療・健康増進を実現させる先端医療社会

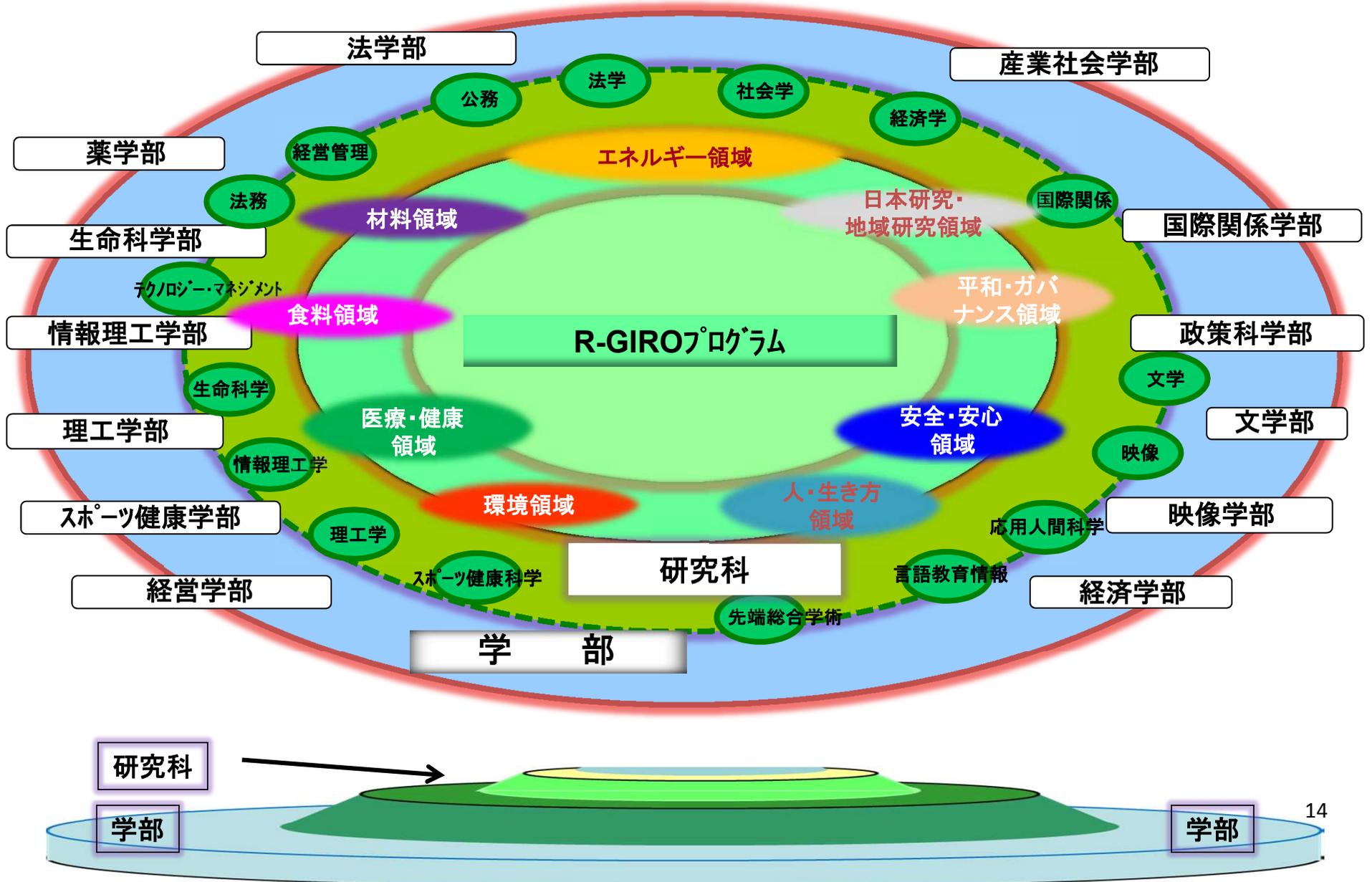
都市鉱山からの新材料再生社会

公害ゼロエミッション社会

東洋・西洋文化融和社会



学園トップのリーダーシップ ⇒ 全学一致の政策的・重点課題解決型の  
立命館グローバル・イノベーション研究機構を2008年設立



# R-GIROの役割

1. 政策的重点課題の策定
2. 研究プロジェクトの審査・採択、管理運営

## 10研究領域で採択された33件のプログラムテーマ一覧

### 自然科学系

エネルギー領域	ガス透過固体電解質を用いたクイックスタートSOFCモジュールの開発	理工学部	教授	吉原 福全
	エネルギーセキュリティ確保のための高効率多接合薄膜太陽電池の開発	理工学部	教授	高倉 秀行
食料領域	共生・循環型社会基盤に立脚した環境・食糧生産システム	生命科学部	教授	久保 幹
	微生物を活用した次世代の育種・栽培・防除技術開発による農作物生産向上	生命科学部	准教授	三原 久明
材料・資源領域	天然テトラピロール分子を基盤とした環境調和型光応答材料の創製	薬学部	教授	民秋 均
	元素資源を基盤とした機能性ソフトマテリアルの創製	薬学部	准教授	前田 大光
	ナノスケールで組織構造をせいみつ制御できる有機・無機ハイブリッドナノ粒子の創製	生命科学部	准教授	堤 治
	自然共生型機械材料高効率利用プロジェクト	理工学部	教授	館山 恵
医療・健康領域	創薬ならびに有用機能性有機分子創生を志向するサステイナブル精密合成研究	薬学部	教授	北 泰行
	蛋白質のフォールディングおよびフォールディング病発症機構の解明のための統合研究	薬学部	教授	加藤 稔
	アンテセンス転写物による発現調節機構を用いた創薬の研究	生命科学部	教授	西澤 幹雄
	糖鎖工学による再生医学新領域の開拓	薬学部	教授	豊田 英尚
	MEMSとBME(bio medical eng.)のマルチスケールフュージョン研究	理工学部	教授	小西 聡
	IRTが拓く超臨場感遠隔協働環境の研究	情報理工学部	教授	田中 弘美
	多次元医用データの統計モデリングと診断補助支援(GAD)システムの開発	情報理工学部	教授	陳 延偉
	人体機能シミュレータと解析ツールの研究開発	生命科学部	教授	野間 昭典
	統合型スポーツ健康イノベーション研究	理工学部	教授	伊坂 忠夫

環境領域	琵琶湖固有魚貝類の細胞株樹立とバイオセンサーへの応用	薬学部	教授	高田 達之
	極限二次利用学による循環型社会(琵琶湖モデル)の構築:リン・希少金属の微生物による回収	生命科学部	教授	今中 忠行
	窒化物半導体をもちいた環境エレクトロニクスの構築	R-GIRO	教授	青柳 克信
	低炭素社会実現のための基盤技術開発と戦略的イノベーション	政策科学部	教授	周 瓊生
安全・安心領域	暮らしを支える安全・安心のインビジブル・セキュア・プラットフォーム	情報理工学部	准教授	毛利 公一

### 人文社会科学系

人・生き方領域	対人援助学の展開としての学習学の創造	文学部	教授	望月 昭
	応用錯視学のフロンティア	文学部	教授	北岡 明佳
	「法と心理学」研究拠点創成	文学部	教授	サトウタツヤ
	電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究	先端総合学術研究科	教授	立岩 真也
平和・ガバナンス領域	新しい平和学にむけた学際的研究拠点の形成:ポスト紛争地域における和解志向ガバナンスと持続可能な平和構築の研究	国際関係研究科	教授	本名 純
	東北アジア・朝鮮半島と日本の疎通と協働—平和構築の視点から	文学部	教授	桂島 宣弘
	アスベスト被害と教済・補償・予防制度の政策科学	政策科学部	教授	森 裕之
日本研究地域研究領域	デジタルアーカイブによる日本文化・芸術資料の世界共有化研究	文学部	教授	赤間 亮
	第二次世界大戦による在外日本人の強制退去・収容・送還と戦後日本の社会再建に関する研究	文学部	教授	米山 裕
	歴史都市京都のデジタル・ミュージアム	文学部	教授	矢野 桂司

### 自然科学・人文社会科学融合

融合新研究領域	農山村部におけるクールベジタブル産法を核とした炭素隔離による地域活性化と地球環境変動緩和方策に関する人間・社会次元における社会実験研究	政策科学部	教授	鐘ヶ江 秀彦
---------	---	-------	----	--------

# R-GIROの研究成果発信

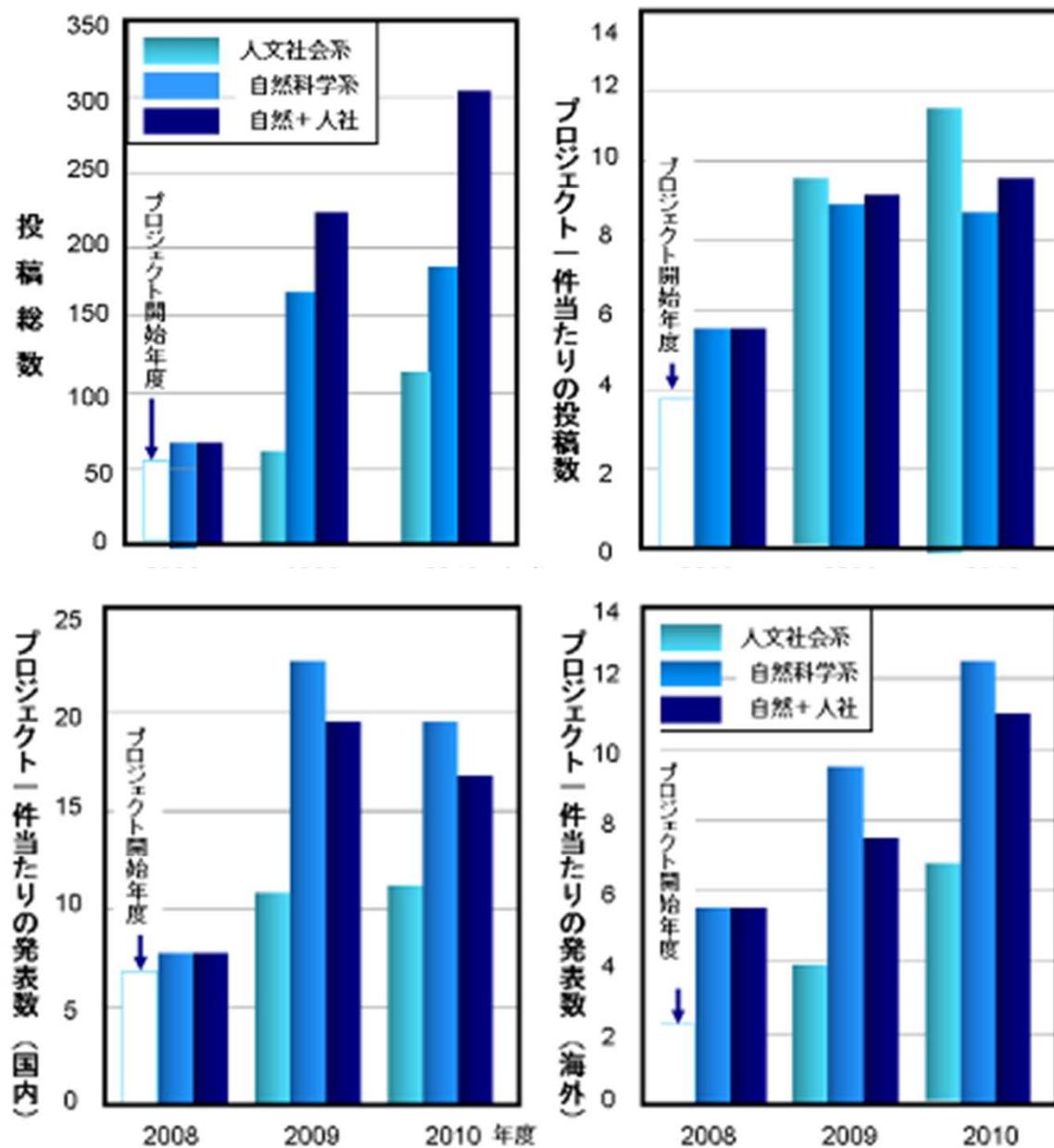


図4(a). プロジェクトメンバー雑誌投稿数(採択年度~2010年度)

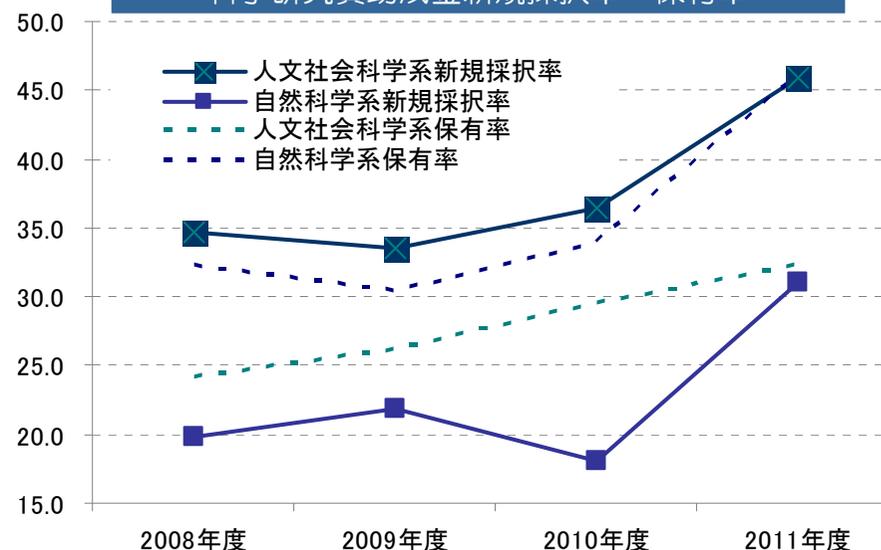
図4(c). プロジェクト1件当たりの学会発表数(採択年度~2010年度)

# R-GIRO研究高度化施策による研究活動への貢献

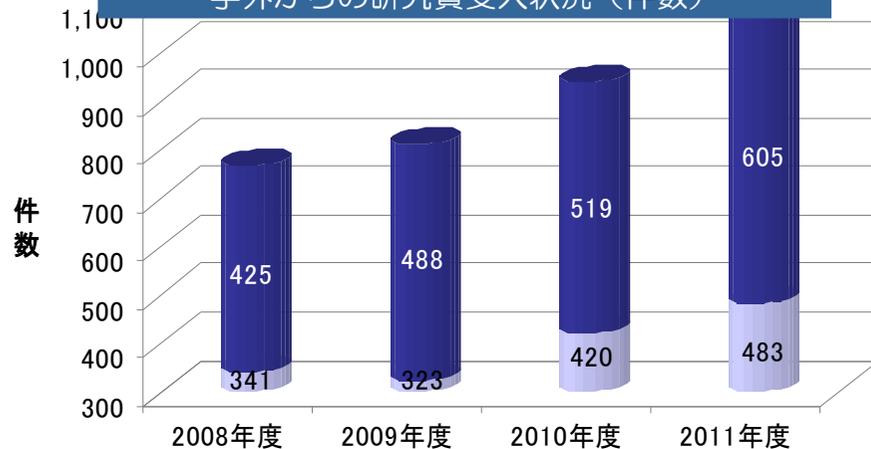
## 科学研究費助成金保有件数・金額



## 科学研究費助成金新規採択率・保有率

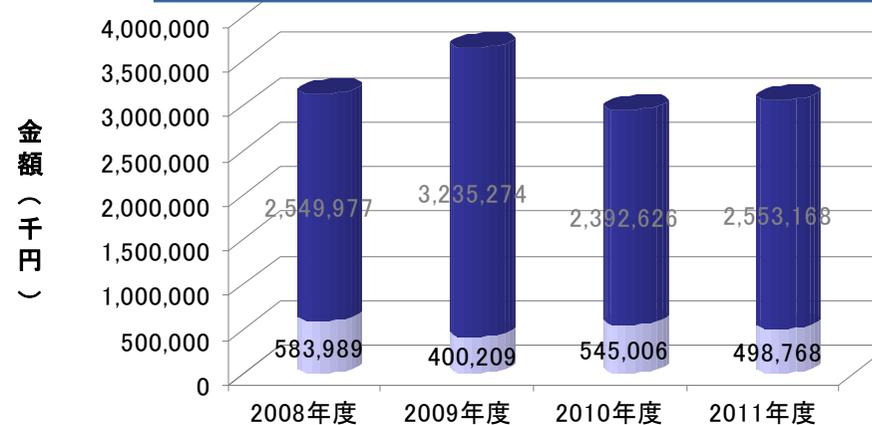


## 学外からの研究費受入状況（件数）



■ 産学連携研究費 ■ 公的研究費

## 学外からの研究費受入状況（金額）



■ 産学連携研究費 ■ 公的研究費

# R-GIRO研究広報活動

## R-GIRO機構誌「四季報」



Vol.01 Spring 2010



Vol.02 Summer 2010



Vol.03 Autumn 2010



Vol.04 Winter 2010



Vol.05 Spring 2011



Vol.06 Summer 2011



Vol.07 Autumn 2011



Vol.08 Winter 2011



Vol.09 Spring 2012



Vol.10 Summer 2012



Vol.11 Autumn 2012



Vol.12 Winter 2012